

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標		期間内目標値	期間内実績値	当年度目標値	当年度実績値	備考
1. 収集・保存・活用・公開								
1-1 資料の収集	収集方針をもとに採集・寄贈・購入等を通して積極的かつ継続的に資料を収集し、デジタルアーカイブ化を進めます。	新規収集資料件数	採集・購入他(全分野)	1, 600件	113件	320件	113件	
			1.地学	50件	1件	10件	1件	化石1件
			2.植物	200件	8件	40件	8件	
			3.動物	880件	51件	176件	51件	鳥類6件、爬虫類1件、昆虫類44件
			4.菌類	25件	33件	5件	33件	
			5.歴史		13件		13件	松方正義関係資料、観光関係資料ほか
			6.考古		0件		0件	
			7.民俗		0件		0件	
			8.美術		5件		5件	高久露厓書簡、須藤悟雲ほか
			9.文学		2件		2件	泉滌太郎草稿、菊地忠志随筆
			寄贈(全分野)		2,885件		2,885件	
			1.地学		0件		0件	
			2.植物		0件		0件	
			3.動物		1,963件		1,963件	昆虫1,963件
			4.菌類		0件		0件	
			5.歴史		702件		702件	学校関係、室井利彦家文書ほか
			6.考古		0件		0件	
			7.民俗		30件		30件	雛人形、鮎釣り用具、ハマユミほか
			8.美術		186件		186件	相馬寛哉日本画、八木澤啓造竹工芸ほか
		9.文学		4件		4件	泉滌太郎作品	
		収蔵資料総件数			96,536件		96,536件	R6.3.31現在 歴史27,454件、民俗6,208件、考古4,284件、文学180件、美術4,184件、地学704件、植物6,441件、動物47,081件
	資料に関する情報収集を積極的に行います。	新規収集図書件数	購入		36件		36件	
			寄贈		556件		556件	
		収蔵図書総件数			18,191件		18,191件	
1-2 資料情報の公開	デジタルアーカイブの公開を行い、利用を促進します。	収蔵資料情報公開件数		5,500件	2,465件	1,100件	2,465件	内訳：歴史502件、動物1,963件 総公開件数：38,303件
1-3 資料の適切な管理	収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。	燻蒸回数	那須野が原博物館	5回	1回	1回	1回	
			附属施設等	5回	1回	1回	1回	旧日新の館
	資料の修復等を行い、資料の保存機能を改善します。	資料の修復	歴史資料		5件		5件	裏打ち5件
			考古資料		0件		0件	

	仔状態を改善します。		美術資料		12件		12件	日本画1件、マット装等11件
1-4 資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。	展示利用件数	常設展示		1,027件		1,027件	
			企画展示	2, 750件	1,050点	550件	1,050点	物語展42件、昆虫展1,000件、特別展8件
			トピックス展他	825件	414件	165件	414件	トピックス展259件、なはくAS21件、日本遺産23件、図書館63件、公民館等40件、ギャラリー展8件
			黒磯郷土館	—	414件		414件	
	他の博物館等における資料の貸出・利用を支援します。	貸出した資料の件数			63件		63件	地学11件、動物4件、歴史2件、考古41件、美術5件
		貸出・提供した二次資料の件数			106件		106件	画像資料105件、モニュメント類3件
【特記事項】 新規収蔵資料は、全体的に目標値を下回った採集資料は、野外調査にかかる時間の確保が難しいことが課題である。寄贈資料は、動物(ガ類1,963件)・歴史(学校関係資料118件、室井利彦家文書531件ほか)・民俗(雛人形1件、鮎釣り用具22件、ハマユミ4件ほか)・美術(相馬寛哉作品等173件、八木澤啓造竹工芸3件ほか)・文学(泉漾太郎作品4件)の受入れを行った。資料の公開については、歴史(那須開墾社第二農場史料502件)・動物(ガ類1,963件)において実施した。資料の修復については、美術分野で日本画1件・マット装等11件、歴史分野で裏打ち5件を実施した。資料の活用については、全体的に目標値を上回った。トピックス展他には、博物館における展示だけでなく、那須塩原市図書館や公民館等との連携展示での利用数も含んでいる。収蔵資料の貸出先は、栃木県立博物館・さくら市ミュージアム・那珂川町なす風土記の丘資料館・益子陶芸美術館・南相馬市博物館・神栖市歴史民俗資料館・群馬県立自然史博物館である。								
【課題・改善点等】 資料の収集は、今後も採集・購入・寄贈等により継続的に収集していく必要があるが、収蔵庫のスペース不足に伴う資料の安全な保存環境や予算、資料の収集及び整理にかかる業務時間の確保が重要な課題となっている。資料の修復は、優先順位をつけて計画的に進めていく必要がある。資料の公開については、今後も積極的な情報の公開に努める。資料の活用については、引き続き企画展示やトピックス展、なはくアーツスポット等において、収集した資料を積極的に利用・公開していく。								
【外部評価委員 所見】 資料の収集については、那須野が原及びその周辺に関わる資料を継続的に収集することが当博物館の使命であるが、当年度は全体的に目標値を下回っている。特に採集資料については、人員不足により採集時間の確保が難しいなどの現実的な問題によるもので、人員不足は今後も危惧されることであり、今後は採集教室の計画や採集ボランティア育成などの新しい取り組みが必要なのではないか。 資料購入は、限られた予算ではあるが引き続き購入に努められたい。 寄贈資料については、5分野で計2,885件もの寄贈があり大変ありがたいことである。その内、昆虫関係が1,963件で現在の収蔵庫の事情からは適切な収蔵管理が心配される。 資料の活用では、市図書館との連携展示が昨年度に続いて大変好評であり、今後も継続的に続けていただきたい。 収蔵資料はさらなる積極的なデジタルアーカイブ化を進め、時代に即した資料の公開を行い市民や研究者等による利用を促進していただきたい。 資料修復については、少ない予算の中で適切に実施されており、今後も引き続き優先順位決めて計画的に修復等を行い、資料の保存状態を改善されたい。 資料の活用については、全体的に目標値を上回っており、収蔵資料の貸し出しについてもこれまで通り積極的に行っていただきたい。 これまでに収集された収蔵資料は総計98,536件であり、博物館として適切、且つ安全に保存されるべく収蔵庫の増設が急務であり、収蔵庫の慢性的なスペース不足や人員不足による資料整理業務の停滞など現実的な課題について、早急に適切な人員数を配置して取り組んでいただきたい。								
2. 調査研究								
2-1 調査研究活動の推進	地域に関するテーマや収集・整理・保存、教育普及等博物館活動に関する調査研究を行います。	那須野が原博物館紀要発行回数	5回	1回	1回	1回		
		学術論文等の執筆数	20回	4回	4回	4回		
	論文、口頭発表、講演会等により、研究成果を広く市民に還元します。	研究成果の口頭発表回数	10回	2回	2回	2回		

【外部評価委員 所見】		①常設展がリニューアルされ、デジタルコンテンツが充実した点もさることながら、市民の郷土理解の推進及び市外在住者への魅力発信の両方の役割を担う博物館として、より魅力的な構成になったように思われる。 企画展についても、興味関心を持って足を運んでもらうことを念頭に置き、展示方法やタイトルを工夫していることがうかがえる。限られた予算やスペースの中での奮闘ぶりに敬意を表す一方で、今後も郷土愛を育む場としての役割を果たせるような展示に期待する。また、こうした魅力的な展示をより多くの人々に知ってもらえるよう、情報伝達の方法も充実させていってほしい。 ②少ない人員で、常設展示リニューアルに続いて興味ある視点から取り上げた企画展を3回にわたり開催し、目標観客数と満足度を達成されたことに敬意を表し、高く評価します。子供は興味対象物を触れて確かめる傾向があるので、展示の中にそのような工夫を取り入れたらいいかもしれません。インターネットで、毎週木～金に市内の週末催し物を市民に知らせる「エールなすしおばら通信」がありますが、これへの投稿も観客数を増やすための一助になるかと思います。						
4. 教室講座等								
4-1 講座の実施	研究成果を市民に還元するとともに、入門的なものから専門性の高いものまで多様な講座を開催します。	参加率	70%	68%	70%	68%	セミナー49%、発表会87%	
		参加者の満足度(平均)	90%	91%	90%	91%	セミナー93%、発表会88%	
4-2 教室の実施	学校教育では経験できない博物館ならではの体験を重視し、興味関心を高める教室を開催します。	参加率	90%	93%	90%	93%	化石100%、昆虫100%、土器97%、科学57%、カエル100%、きのこ100%、チャレンジ86%、なはくAP100%	
		参加者の満足度(平均)	90%	98%	90%	98%	化石100%、昆虫100%、土器93%、科学100%、カエル92%、きのこ100%、チャレンジ97%、なはくAP100%	
4-3 博物館フェスタの実施	市民と協働して博物館フェスタ等を開催し、博物館の魅力を広く発信します。	来館者数(延べ)	5,000人	1,200人	1,000人	1,200人		
		参加者の満足度(平均)	90%	93%	90%	93%		
4-4 生涯学習活動の支援	市民からの質問や相談等に応えるレファレンス業務を積極的に実施し、一人ひとりの学習を支援します。	相談対応件数		58件		58件		
【特記事項】		講座は一般を対象に那須文化セミナー(5回)、地域研究発表会(1回)を開催。子ども・親子を対象に化石発掘隊(1回)・親子昆虫教室(2回)・土器づくり教室(3回)・科学教室(3回)、カエル観察会(1回)、きのこ観察会(1回)の6コースを実施。その他に親子体験チャレンジ(12回)・なはくアートプロジェクト(3回)を開催した。セミナーは民俗をテーマに開催した。講座の参加率は4年度と比べて44人増加し、動画配信の視聴者数も45人増加した。地域研究発表会は自然分野1件、人文分野1件で、参加率は2年続けて目標値を上回った。親子体験チャレンジの参加率は4年度とほぼ同等であった。博物館フェスタでは、4年度に引き続きよくばり親子体験チャレンジを事前申込制で実施した。来館者はコロナ前の元年度を超える1,200人に達したが、午前に集中し午後は少なかった。化石発掘隊・親子昆虫教室・カエル観察会・きのこ観察会・なはくアートプロジェクトは、参加率・満足度ともに高い水準を保っている。						
【課題・改善点等】		セミナーや科学教室は、各年度でテーマが異なるため、参加率にばらつきがあるのはやむを得ない。親子体験チャレンジは、開始直前に欠席となるケースが多く、参加率に影響が生じる。						

<p>【外部評価委員 所見】</p> <p>昨年度の教室講座の開催数は41回であった。職員スタッフの少ない中で、講座の準備と実施をされ、参加者のほとんどが90～100%という高い満足度を得ていたことに対し、敬意を表します。</p> <p>しかも、その内容も子供向け、親子向け、一般の大人向けと多彩であったと思います。特に、子供向けの内容は、化石、昆虫、カエル、キノコ、アート、土器、宇宙等と生き物の観察、作品の制作、地質や天体と本当に幅広い分野にわたっていました。</p> <p>子供たちにとっては、いろいろな興味深い講座だったと推察されます。また、一般の大人向けでは、那須地域の自然、歴史や民俗等の内容が企画、実施されました。この大人向けの内容と回数は、毎回苦勞されていると思いますが、内容の検討をさらにすすめ、より一層の講座の充実を期待します。</p> <p>新型コロナウイルス感染症も、だいぶ落ち着いてきたので、親子体験チャレンジや博物館フェスタの持ち方は、以前に戻りつつあります。親子体験チャレンジでの未就学児の取り扱い、参加者の要望をできるだけ受け入れながらも、担当者の指導と他の参加者の作業に支障がないよう配慮することが大切だと思います。</p> <p>フェスタについては、確かに入場者の流れは、ほぼお昼前後がピークで、午後は少なくなっていました。その点で、よくばり親子チャレンジのメニューは、午前午後通しての実施にすることが適切かもしれません。</p> <p>いずれにしても、ボランティアスタッフの高齢化の進展は止まりません。いろいろな媒体を通して、または博物館内の掲示板にも、常時スタッフ募集の掲示を試みてはいかがでしょうか。</p>							
5. 地域との連携及び市民との協働							
5-1 市民との協働	自主団体を支援し、市民による教育普及活動を促進します。	市民に活動成果を発表する場を提供します。			14件		14件
		施設の利用者人数(学校を含む)	40, 000人	11,744人	8,000人	11,744人	エントランス利用5件(若月・倉本・水の会・田空・自然調査会)、石ぐら会1件、那須文化研究会2件、那須資料ネット1件、宇都宮大学1件、日本オオタカネットワーク1件、水の会1件、塩原ビバ2件
5-2 地域との連携及び学術的な支援	市民や地域の組織、他の博物館等の関係機関との連携・協働により、資料の収集・整理、調査研究及び教育普及活動を行います。	連携事業件数		10件		10件	図書館2件、県立博物館2件、三島公民館1件、大山公民館1件、西公民館2件、ギャラリーコンサート1件、環境展1件、
	博物館の資料をもとに、文化財保護や環境保全等に関する活動を学術的な側面から支援します。	支援件数		7件		7件	県RDB3件、市動植物調査1件、市文化財審議会1件、市副読本編集委員会1件、大田原市那須与一伝承館運営懇談会委員1件
5-3 学校教育との連携	自主団体との協働により、学校見学で来館する児童生徒に対して、展示案内・体験学習等を行い、地域の特性や先人たちの想いを伝えます。	学校来館数(那須野が原博物館)		63校		63校	
		学校来館数(黒磯郷土館)		7校		7校	
	学校と連携して、博物館の資料を授業で活用できるよう努めます。また、要望に応じて職員や専門家を派遣します。	資料貸出件数		16件		16件	DVD10件、民具2件、開拓4件
		出張授業件数		8件		8件	槻沢小1件、西小1件、埼玉小1件、東小2件、大山小1件、石上小1件、高林中1件

【外部評価委員 所見】	収蔵施設の増設について、実現に至ってっていないことは、まことに残念であり問題である。 自然・歴史・文化の資料を後世へ伝えて行くことは、現在生きる私たちの使命であり、後世に対する責務と考える。継続的な収集とともに、現在収蔵されている資料の適切な保存管理が必要であるが、仮収蔵場所としての日新の館の保存環境はカビの発生など、決して良いという状況ではなく、本来の保存管理を行う場所でないことを物語っている。早急なる収蔵庫の増設を望むものである。 また、那須野が原博物館は20年を経過し、諸施設・所機器の経年劣化が進行し、特に空調の経年劣化により運転停止ともなれば、博物館全体の問題にもかかわるものである。計画的に執行部への説明、働き掛け等を繰り返していただきたい。 救命救急講習会は本年も実施されなかったようであるが、博物館へのお客様と共に博物館関係者の命にも関わることであり、是非計画的に実施を望むものである。 広報体制としては、マスコミやメディア・X・みるメール等への情報提供をこまめに発信し、展示だけでなく講座・教室・イベント等についても発信し、露出度を増し博物館の活動をアピールしていただきたい。博物館事業の満足度は全体的に高いものであり、その入口となる広報媒体により多くの人たちが来館するツールとして有効的に活用していただきたい。
-------------	---

【外部評価委員 総合所見・指摘事項】
20周年常設展示リニューアルの業務多忙の中、令和5年度の運営や諸事業が一定の成果を得たことは評価したい。今後は、リニューアルの目玉となる文化財3Dマップを中心にしたデジタルコンテンツや体験コーナーの活用が市民に浸透するよう期待したい、 昨今の地球環境の急変による自然災害の巨大化や歯止めが利かない少子高齢化による生活環境の激変は、地域の文化遺産の消滅の危機を増大させている。そのような中であって、博物館の基本使命である地域資料の収集・保存が、予算縮小や収蔵施設の狭隘化で低下・後退してはならない。博物地域文化啓発に資する博物館として収蔵庫の増設を実現すべく、計画的かつ積極的な地域資料の収集・保存・活用・公開に努められたい。 調査研究においては、諸機関や市民活動との連携強化に努めて、市民と共に歩む博物館の具現化をさらに図っていただきたい。 展示分野では、市民が興味を持って足を運ぶような内容になりつつあるが、多様化している広報媒体の特性や機能を精査して、市民のさらなる認知度や理解度深化を図られたい。 教室講座では、職員スタッフとボランティアとの連携で成果があったが、学芸員不足やボランティアスタッフの高齢化が、今後も成果を得られるかが不安である。市民に開かれた博物館機能を損なわないよう対策を講じられたい。 地域連携および市民協働においても、日本遺産認定による構成文化財の認知度向上や文化観光活用のために諸機関との連携や市民活動の支援・啓発が今後の大きな課題になろう。展示・講座・見学会などを展開しつつも、博物館の運営や事業との整合性を図られたい。 施設の管理運営については、新型コロナ感染症も落ち着いてきてはいるが、天候不順による体調不良や自然災害の危険度が増大している状況下、来館者の健康管理や体験学習の安全・保安に対する職員の危機管理意識の向上を図ると同時に、資料保存・管理においても施設機能の保全や安全管理に努められたい。
【博物館の対応】
令和5年度からは、第三期が始まり博物館評価も定着してきている。教室講座や企画展は、ほぼ計画どおり実施することができ、開館20周年常設展リニューアル事業についても無事完了することができ、内容等についても好評を得ることができた。資料の収集や調査研究も限られて予算を有効に活用し、継続して実施することができた。調査・研究においては、紀要の発行を継続的に行うことで、資料の記録化を継続していくとともに成果を市民に還元することが重要と考えている。調査については、各分野ごとに個々に進めているのが現状である。SNSを活用した情報発信を推進し多くの市民等に様々な博物館の情報を提供することができた。また、那須文化セミナーの映像配信も好評を得ていることから、継続して実施してゆきたい。 博物館関連団体においては、新会員の確保や会員の高齢化が問題となっており、実施可能な方法を団体と協議しつつ事業を実施していく時期にきている。学校見学の対応については、できるだけ多くの学校を受け入れるようにしてきたが、学校の統廃合による校数減少やバスの確保等の問題などが影響していると思われるが、来館する学校数が今一つ伸びない。小学3年生については、家電を中心としたメニューや体験を導入し、校には概ね好評を得ている。資料の貸出しや出張授業についても、一定程度の需要はあったので、さらに充実を図っていきたい。 現在、新収蔵庫の建設が難しくなっている現状をふまえ、随時収蔵庫のスペース確保を実施しつつ資料の収蔵を進めているが、根本的な解決には至らない。それ以前に、現在使用している空調制御システムや冷温水発生機が耐用年数を過ぎており故障すると現在収蔵している資料に悪影響を及ぼすことから、空調制御システムの改修、次に冷温水発生機の新設を急ぎ、それら完了してから新収蔵庫の見通しをつける必要がある。優先順位を付け計画的に施設・設備の整備をすすめていく必要がある。また、博物館の人員体制についても十分なものではないことから、人員の充実についても継続して要望をしていく。

外部評価委員				
令和6年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員				
谷田 恵一	高根沢広之	木村 康夫	月井 誠一	千葉 昭彦
金井 忠夫	後藤 英雄	大塚 好一	松村 雄	君島 章男